

教科(科目)	英語コミュニケーションⅠ	単位数	4単位	年次	1年次
	必修	必修	必修	必修	必修
使用教科書	開隆堂出版『Amity English CommunicationⅠ』				
副教材等	開隆堂出版『Amity English CommunicationⅠワークブック』数研出版『Me l o d y』 三省堂『クラウン チャンクで英単語 Basic』、『クラウン チャンクで英単語 Basic ドリルノート1』 美誠社『Enjoy!ドリルで英文法』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の価値創造に寄与できる力を育成します。 ②自分の居場所に主体的に粘り強く関わろうとする態度を育成します。 ③自分と他者の人権を共に尊重する姿勢を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①各教科・科目で習得した知識・技能を、他教科や他分野で活用するなど、教科横断的な教育活動を展開します。 ②地域と連携する活動を教育課程に位置づけ、授業での学びが地域の充実に活かされるような授業を行います。 ③人文・自然科学系列、福祉・家庭系列、工業技術系列、ビジネス・情報系列の4系列を設置して、個別最適な学びを軸とした主体的な学習を進め、幅広い進路希望に対応します。 ④選択授業、少人数授業を数多く設定し、個性を生かした主体的な選択や実践的・体験的な学習を重視することで、生徒の適性や理解度に合わせた丁寧でわかりやすい授業を実施します。 ⑤一人ひとりの人権の尊重のもと、発達支持的生徒指導を軸に、みんなが安心して学べる場所にする風土づくりに取り組みます。

2 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 聞くこと ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (2) 読むこと ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (3) 話すこと〔やり取り〕 ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して話して伝え合うことができるようにする。 (4) 話すこと〔発表〕 ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して話して伝えることができるようにする。 (5) 書くこと ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

3 指導の重点

①中学校既習事項を含め、基本語彙、基本文法の定着を目指す。 ②読み、書き、聞き、話すという作業を通じ、コミュニケーション活動の土台となる英語の運用能力を高める。 ③様々な事象に対して興味や問題意識を持ち、自分の考えを深め、他者と意見を交わす姿勢を身につける。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査や課題考査の分析 ・ ワークシートやレポート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 毎日の授業での活動を評価 ・ 授業中の発言、発表論への取組の観察 ・ パフォーマンステストの分析 ・ 振り返りシートの記述の分析など	以上の観点を踏まえ、 ・ 毎日の授業での活動を評価 ・ 授業中の発言、発表への取組の観察 ・ ワークシート、提出物などの確認 ・ 振り返りシートの記述の分析など
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	Get Ready 1～4	教科書 ワークブック Melody チャンクで英単語	中学校で既習の内容を学び直すことで、今後の高校英語の学習の土台を築く。 ＜言語材料＞ 数字、文字、品詞	12	提出物 振返りシート パフォーマンステスト GWテスト (中学単語)
5	Lesson 1 “The Beautiful Scenery”		お気に入りの場所について学習したことを踏まえ表現したりする。 ＜言語材料＞ be 動詞／一般動詞の現在形	14	#1 定期考査 L1～3 Melody 4/5/6/7 チャンク Step1～2
6	Lesson 2 “My Best Friend”		日常生活や大切にしている人について学習したことを踏まえ表現したりする。 ＜言語材料＞ be 動詞／一般動詞の過去形	14	
7	Lesson 3 “Love for Dance”		コンピュータの使い方や得意なことについて学習したことを踏まえ表現したりする。 ＜言語材料＞ 進行形 / 助動詞	14	提出物 振返りシート パフォーマンステスト 夏テスト・中学単語 ・ Step3～4 ・ Melody12/13/14
8	Lesson 4 “Endangered Species”		動物に関することや好きな生き物について学習したことを踏まえ表現したりする。 ＜言語材料＞ 不定詞		#2 定期考査 L4～5 Melody 15/16/17 チャンク Step5
9	Lesson 5 “The History of Chocolate”		健康や空いた時間について学習したことを踏まえ表現したりする。 ＜言語材料＞ 動名詞	14	
10	Lesson 6 “Our School”		好きな教科や描かれたイラストについて、学科やクラブについて学習したことを踏まえ表現する。 ＜言語材料＞ 比較	14	提出物 振返りシート パフォーマンステスト
11	Lesson 7 “Serendipity”		相手の生活面や経験などについて表現し、セレンディピティについて理解する。 ＜言語材料＞ 現在完了	14	#3 定期考査 L6～8 Melody 10/19/20 チャンク Step6～7
12	Lesson 8 “Sapeurs”		服装や平和のシンボルについて理解し、大切なものについてまとめたりする。 ＜言語材料＞ 受動態	13	
1	Lesson 9 “Special Makeup Effects”		好きな俳優や映画について学習したことを踏まえ表現したりする。 ＜言語材料＞ 分詞の形容詞的用法	13	提出物 振返りシート パフォーマンステスト 冬テスト・中学単語 S8 ・ Melody1/2/3/p22
2	Lesson 10 “Clean Water”		水分の摂り方について理解し、好きな飲み物について表現したりする。 ＜言語材料＞ 関係代名詞	13	#4 定期考査 L9～10 Melody 8/9/11/18/p23 チャンク Step9/10
3	1年間のまとめ 次年度の準備		年間の学習を振り返り、生徒各自に反省・評価させ、次年度に向けたガイダンスを行う。	5	

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

授業に際して適宜課題を課す。また、長期休業中にはまとまった課題を出す。このほかに、ノートやワークブックなども定期的に提出を求め、評価の対象とする。以上のことで基本的な学習習慣を身につけ、基礎学力を育成する。また、パフォーマンスを実施、評価し、積極的に英語でコミュニケーションをとる態度を育てる。

8 担当者からの一言

英語が苦手な人は、高校入学を機に新たな気持ちで再チャレンジできる。授業内容も中学英語の復習から始めるので英語の勉強を基礎からやり直し自信をつけることができる。また、英語が得意な人は、「Melody」や「チャンクドリルノート」を自主的に進め、自分なりの目標を定めて積極的に学習をすすめることが望ましい。